



実施機関・協力機関

(株)たすく、(株)サティスファクトリー、
(国研)農業・食品産業技術総合研究機構

事業の背景

- ベトナムの養豚業は中国に次いでアジア第2位の飼養頭数を誇る重要産業であるが、大量に排出される養豚糞尿の処理が課題となっている。
- 養豚糞尿の約40%は池、河川及び下水への直接放流等不適正な処理が行われている。残りの養豚糞尿は、バイオガス処理(30%)及びラグーン処理(30%)が行われているがその処理後の排水品質にも課題が多い。
- 適正な処理が行われていない養豚糞尿は水質汚染、悪臭など生活衛生環境の悪化及びGHG排出源(嫌気性発酵によるCH4排出)となっている。

事業の概要

- ベトナムの養豚環境に適したシステムとしてハイブリッド伏流式人工湿地ろ過システムを設計し、その普及を図る。
- H28年度FS調査では以下について実施する。
 - ・ ベトナムの養豚業界の動向調査
 - ・ 養豚場10カ所程度の訪問調査
 - ・ (株)たすくがすでにフックティン養豚場に導入した伏流式人工湿地ろ過システムからの原水・処理水の水質、水量・水温及びシステムの運転・管理状況の確認調査
 - ・ 関係政府・企業等との連携構築
 - ・ 事業計画書の作成

実施場所

ベトナム、タイグエン省
ドンヒ県ホーチュン村
(フックティン養豚場)



導入する技術の概要

- 日本で産学官の連携協力により開発された「ハイブリッド伏流式人工湿地ろ過システム」。
- 本技術の特徴は、省スペース、低コスト(初期投資及びランニングコスト)及び省エネルギーである。



期待される成果・事業化展望

- 期待される成果として、水質改善、資源・エネルギー循環の向上、GHG排出量の削減、生活環境の改善及び畜産業の持続的発展への貢献があげられる。
- まずはニーズの高いベトナム国内の畜産排水処理にターゲットを絞りつつ、将来的には食品加工工場等の有機性排水や周辺のアジア諸国へ事業展開を計画する。